

別紙 1

1 環境保全活動に関する方針等

1-1 環境保全活動に関する方針

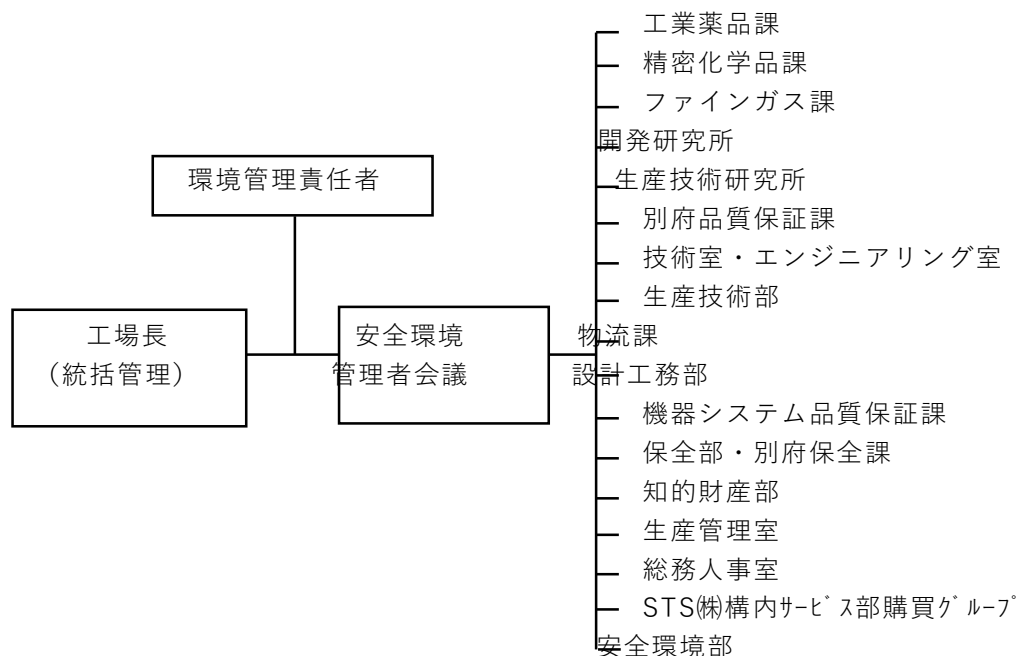
化学メーカーとして事業活動がヒトや地球環境へ与える影響を考慮し、製品の開発・生産・流通・消費・廃棄までの全ての過程において、環境保全に取り組むことが責務であると認識し、環境方針を定めます。

1. 環境保全に関する法規制を遵守することに加え、より高い水準の目標を自主的に定めて取り組みを行います。
 2. 安全で環境に配慮した製品・サービスを提供します。
 3. 地球温暖化の抑制に向け、温室効果ガスの排出量を削減します。
 4. 水を含む資源やエネルギーの持続可能な利用に努めます。
 5. 循環型社会の形成に向け、廃棄物の削減、再利用、再資源化に努めます。
 6. 自らの事業活動において生じる生物多様性への負の影響を低減するとともに、正の影響の拡大に努めます。
 7. 従業員の環境意識を向上させるための教育と訓練を継続し、環境事故の防止に努めます。
 8. 事業活動の全ての過程に関係するパートナーに、環境負荷低減を働きかけます。
 9. 事業活動が及ぼす環境への影響について、適時、適切に利害関係者に開示し、対話を通して信頼関係の維持・向上に努めます。
10. 課題の取り組み状況を定期的に自己評価し、P D C Aを回します。
- 年度毎の活動計画および活動状況報告は、弊社のホームページ、統合報告書等により公表いたします。

1-2 環境保全活動に関する組織体制

以下の環境保全活動に関する管理組織を推進母体として活動いたします。

(責任者：所長、部長、課長、チームリーダー)



別紙 2

2 環境保全活動の実施状況等

項 目	取組結果	今後の取組計画
自動車公害 対策	1. 原材料調達で最適な輸送手段（貨物列車、船舶など）を採用し、帰り便を有効利用している 2. 車通勤を減らすため、社用通勤バスを利用 3. 出張用、広報用車両に、電気自動車を使用 4. 朝の定期立番による通行ルート、交通マナーのチェックを実施	・ 物流部門で輸送管理、社内研修を継続する ・ 社用車更新時に電気自動車を導入していく
化学物質対策	1. P C B 含有塗膜の使用有無に関する調査完了 2. 有機溶剤、騒音等の作業環境測定を実施 3. 工場排水の連続監視 排水監視を安定させるため、簡易水質測定器（パックテスト）を併用している	・ P C B 含有塗膜の回収、処分計画作成 ・ メイン排水管、排水ピットの定期洗浄を継続する
エネルギー 対策	エネルギー使用量は、前年より 6 % 減少 1. 蒸気回収による余剰蒸気の再利用 2. 赤外線モニタで点検し、断熱不良箇所の補修を実施 3. 照明器具を L E D へ更新（水銀灯・蛍光	以下の継続取組 ・ 高エネルギー原単位プロセスの計画改善 ・ 高効率電気機器への更新 ・ 節電対応

	灯：458 灯）、空調機計画更新（2 台）	
廃棄物対策	廃棄物発生量は前年度比で約 27%減少 外部委託処理量は前年度比で約 11%減少 （汎用設備における製品の変化による） 1. 分別徹底による廃棄物発生量の抑制 2. 自社焼却処理による外部委託量の削減 3. 電子マニフェストによる処分廃棄物の適正管理（許可有効期限、処理完了の確認）	以下の継続取組 ・ 廃棄物発生量の減少 ・ 埋め立て量の削減 （有価物化、リサイクル、分別徹底）
緑化対策	1. 緑地樹木の計画剪定による維持管理 2. 工場内緑地帯の維持管理	・ 継続取組 ・ 緑地帯の整備
グリーン購入	1. 顧客からの環境影響調査に関する回答 2. 再生製品の優先購入（再生紙等）	・ 継続取組
環境マネジメントシステム	1. 第 7 回更新審査を受審し合格した 2. 内部環境監査を通じて監査員の育成を実施	・ 継続的改善を実施する ・ 内部環境監査員の養成研修を実施する
環境教育	1. 工場従業員へ環境保全活動を通じて情報共有を行ない、環境管理意識の向上を図った 2. 社内掲示、管理者会議などで環境活動を啓蒙	・ OJT 教育により環境管理意識の向上を継続する
地域社会への参画	1. 総合防災訓練を実施し、地域の方へ公開 2. 本荘港周辺の清掃活動を実施 3. 播磨町夏休みおもしろ教室で学童教育実施	・ 工場周辺の構外清掃活動を継続する ・ 地域貢献行事を計画していく
環境コミュニケーション	1. 統合報告書の発行 2. 自社産業廃棄物焼却炉の維持管理情報を毎月ホームページで公開している	・ 継続取組